



News Release

2024年9月26日
NITE (ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

“ずぼら調理”が招く危険 ～トリセツをよく読んで「調理家電の事故」を防ぎましょう～

1. 事故の発生状況

NITEに通知のあった製品事故情報※1のうち、2019年から2023年の5年間に発生した調理家電の事故は、北海道で合計6件ありました。

(1) 被害状況別の調理家電の事故発生件数

調理家電の被害状況別の製品事故発生件数を表1に示します。

表1 被害状況別の調理家電の事故発生件数 (2019～2023年) ※2、※3

被害状況		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	総計
人的被害	死亡	0	0	1[1]	0	0	1[1]
	重傷	0	0	0	0	0	0
	軽傷	0	0	0	0	0	0
物的被害	拡大被害	0	0	2[2]	1[1]	0	3[3]
	製品破損	0	1[1]	1[1]	0	0	2[2]
総計		0	1[1]	4[4]	1[1]	0	6[6]

(2) 製品別の調理家電の事故発生件数

調理家電の製品別の事故発生件数を表2に示します。

表2 製品別の重大製品事故発生件数 (2019～2023年)

製品名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	総計
電子レンジ	0	1	3	1	0	5
IH調理器	0	0	1	0	0	1
総計	0	1	4	1	0	6

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含みます。

(※2) 製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としています。

(※3) []は火災件数。

2. 調理家電の製品事故の事例

■ 電子レンジ

事故発生年月 2019年2月(北海道、50歳代・男性、製品破損)

【事故の内容】

使用中の電子レンジ付近から出火し、焼損した。

【事故の原因】

庫内と扉の隙間に食品カスが付着したため、マイクロ波が食品カスに集中してスパークが発生したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「庫内に付着した油や食品カスを放置したまま加熱しない。発火や発煙の原因になる。」旨、記載されている。

■ IH調理器

事故発生年月 2021年7月(北海道、20歳代・男性、拡大被害)

【事故の内容】

宿泊施設で当該製品を使用中、鍋の内容物から出火する火災が発生し、周辺を焼損した。

【事故の原因】

当該製品を使用して少量の油でかつ鍋底に反りのある鍋を使用して油を加熱して調理後、スイッチを切り忘れたため、安全装置が油温を検知する前に油が発火温度に達し、出火に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「揚げ物調理のときは反りが1mm以下の鍋を使用する。」「900g未満の油では調理しない。」旨、記載されている。

3. 調理家電による事故を防ぐために気を付けるポイント

○調理前に、取扱説明書及び商品パッケージに記載されている注意事項を確認する。

- ・禁止されている容器を加熱しない。
- ・禁止されている食品を加熱しない。
- ・揚げ物調理をする際は、取扱説明書に定められている油の量を守る。

○調理中は、その場を離れない。加熱しすぎない。

○調理後は、こまめに掃除する。

4. 製品事故の実験映像について

製品事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者:佐藤、長谷川

電話:011-709-2324